

第2次中期経営計画（令和3年度～令和7年度） — 令和6年度 進行管理報告書 —



オガ粉出荷先企業との体験交流イベント（小矢部市末友地内）



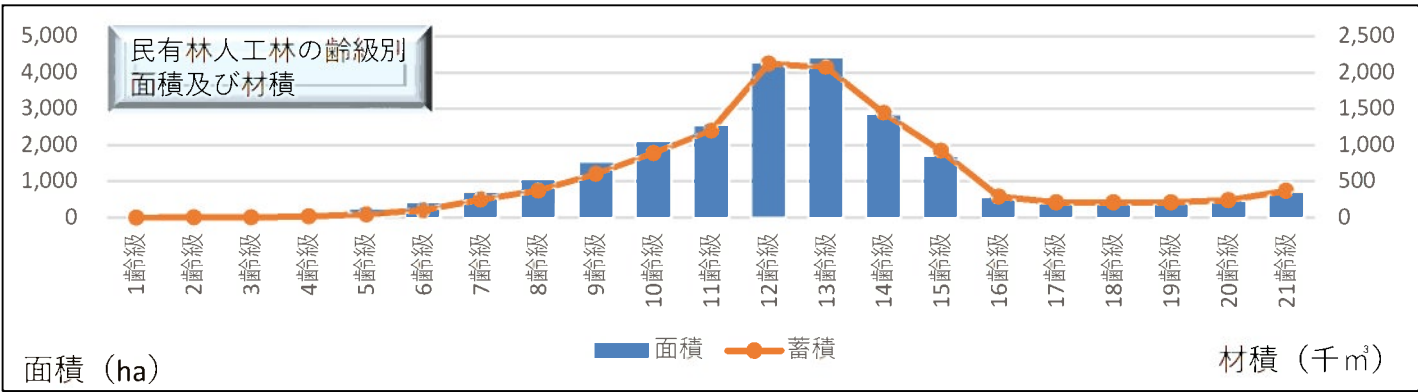
地域の消防署員との伐採講習会（高岡市岩坪地内）

管内の概要

森林の概況

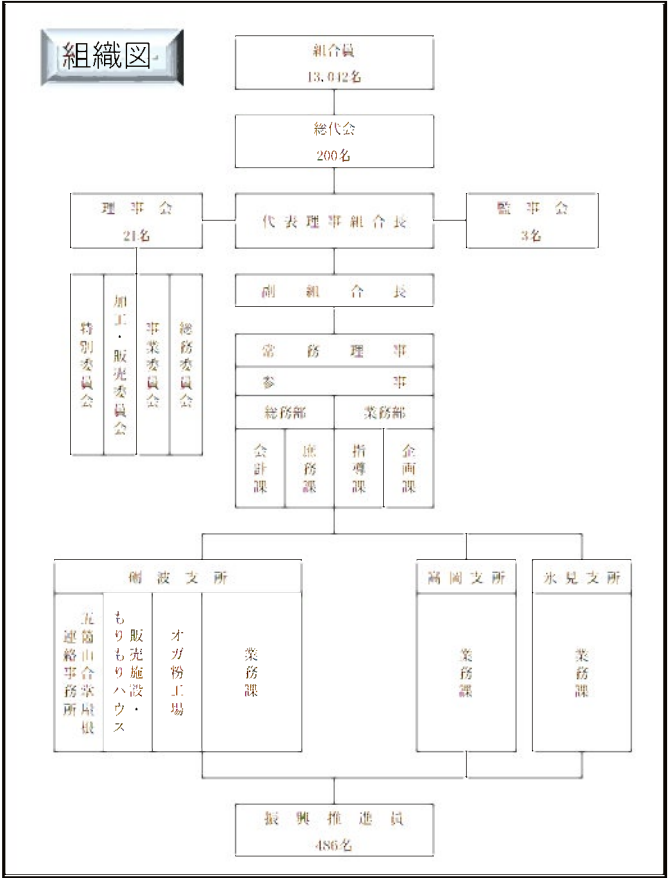
R6.9刊行 富山県森林・林業統計書より

区分	総面積 (ha)	森林面積 (国有林含む) (ha)	林野率 (%)	うち民有林面積 (ha)	うち民有林人工 林面積 (ha)
県全体	424,754	285,311	67%	179,815	50,656
管内	147,930	83,333	56%	74,059	24,404
管内/県全体	35%	29%		41%	48%



組合の概要

設立年月日	平成20年10月1日 砺波、利賀村、五箇山、高岡地区、氷見市の5組合が合併 組合の地区（高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市）		
出資金	318,917千円 (出資口数 637,833口 1口 500円)		
事業量	事業総収益	1,804,609千円	
	事業総費用	1,438,346千円	
	事業管理費	371,481千円	
	税引前当期利益	△5,631千円	
財務諸表	流動資産合計	1,450,574千円	
	固定資産計	432,597千円	
	資産合計	1,883,171千円	
	負債合計	462,517千円	
	組合員資本合計	1,420,654千円	
	負債・資本合計	1,883,171千円	
従業員数 (R7.4.1現在)	職員	37名	森林経営プランナー2名 森林施業プランナー16名
	専門職員	13名	再雇用3名(プランナー1名) 事務5名 技術5名
	常用人	40名	森林従業員34名 工場従業員6名
	臨時従業員	17名	事務11名 技術6名
	計	107名	



組合の概要

令和6年度 主要事業の概要



間伐 8地区 151.43ha



更新伐 8地区 77.03ha



主伐 23ヶ所 49.73ha



森林経営計画認定3,433ha



植栽 15ヶ所 19.93ha



林業専用道 1路線 0.3 k m



森林作業道15路線54.3Km



竹林整備 31.42ha



特殊伐採等（屋敷林）142件



合掌屋根葺替 8棟



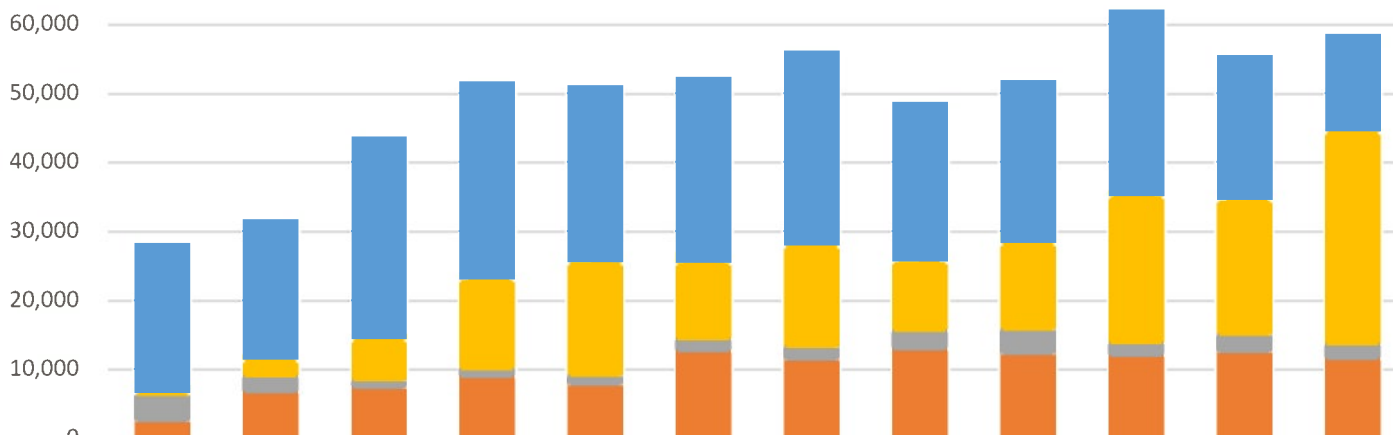
オガ粉製造 22,758m³



もりもりハウス 36,379人

林産事業

出材量の推移 (m³)



	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
間伐	21,656	20,329	29,380	28,755	25,636	26,915	28,188	23,133	23,567	27,012	21,020	14,118
主伐	402	2,497	5,962	13,060	16,534	11,081	14,802	10,058	12,647	21,359	19,570	30,934
支障木	3,821	2,305	1,144	1,116	1,243	1,823	1,888	2,681	3,539	1,819	2,491	2,168
広葉樹	2,423	6,596	7,267	8,833	7,752	12,513	11,294	12,855	12,144	11,924	12,482	11,402
計	28,302	31,727	43,753	51,764	51,165	52,331	56,172	48,728	51,897	62,114	55,563	58,622

第2次中期経営計画の概要

経営理念

富山県西部森林組合は
森林整備のための高度な技術集団として
豊かな森林の造成に努めることにより
森林所有者への利益還元を増大するとともに
森林の持つ公益的機能の維持及び
森林生産力の増進を図り
もって地域社会の持続的发展に寄与します。



経営方針

課題

- ・ 安定的な経営
- ・ 集約化合意形成の更なる効率化
- ・ 人材の確保・育成の強化、労働環境改善
- ・ もりもりハウスの安定経営
- ・ 所有者不明森林の増加・組合員の減少
- ・ 素材出荷数量の鈍化
- ・ 森林経営管理法の施行
- ・ 固定資産の計画的な利用及び処分

経営ビジョン

1. スマート林業による事業運営の改善を図る。
2. 計画的な森林整備と林産事業の重点化により持続的な森林経営を展開する。
3. 人材の確保・育成を強化するとともに労働環境の改善を図る。
4. 加工部門（オガ粉生産）の強化及びもりもりハウスの改善を図る。
5. 組織の体質強化を図る。
6. 各取り組みを進め、事業利益を改善するとともに、SDGsの目標達成に貢献する。

行動指針

チームワーク 現場重視 改善 チャレンジ

1. スマート林業による効率化と経営基盤の強化

《基本方針》 ICTを活用したスマート林業により、事業の効率化、事業分析、会計事務の効率化、期中での収支試算を実施し、収支改善を図る。

(1) 高精度な事前調査 (2) 施業集約の効率化・省力化 (3) 業務の効率化・採算性の向上

● ドローンを活用した補助金申請業務の効率化

補助金申請や検査業務にドローンにより撮影された画像から作成したオルソ画像といったデジタル技術が活用できるようになった。このことにより、現地測量における作業時間や作業人数の低減といった作業の効率化が期待できる。さらにオルソ画像により補助金申請した場合は、オルソ画像上で確認できる事項については現地検査が省略可能となり、業務の効率化が期待されている。

当組合では令和元年度から下刈、人工造林のドローンによる検査を実施してきており、今年度は間伐での補助金申請に活用できないか検証を行った。

面積測量検証

令和6年度にGNSS測量（GPS等）とドローンによるオルソ画像の面積測量の検証を実施した。

従来測量

GNSSを用いた測量を行っており、森林内に入って外周を歩きながら杭打ちを行って面積測量を行った。

オルソ画像測量

ドローンによる測量は、パソコンで計画作成、現地でドローン自動飛行による空撮、パソコンでのオルソ画像処理を行い、GISに取込み机上で画像を見ながら面積確定を行う。



従来測量



オルソ画像測量

伐採率検証

伐採率について、オルソ写真で確認できるか検証を行った。

従来の確認方法

従来の伐採率確認方法は、現地で10m×10mのプロット調査により、伐採本数と残存本数から伐採率を算定していた。

オルソ画像検証

オルソ写真上で80本の杉を確認することができた。そのうち伐採本数は19本あり、23%の伐採率で施工したことが確認できた。



間伐施工前写真



間伐完成写真

検証結果

・面積比較の結果、従来測量は1.775haに対しオルソ画像測量は1.783haとなり、許容可能な誤差であることが分かった。測量にかかる人工は従来測量1.66人/haに対し、オルソ画像測量は0.06人/haであり、大幅な省力化を図れることが分かった。伐採率については、画像による伐採判定ができることから、現地検査を省略することで業務の効率化が可能となることが分かった。

・この結果を基に、令和7年度より補助金申請業務への運用を進める。

2.集約化・林産業務の効率化

《基本方針》 集約化10ヵ年計画を策定し、更なる大団地化を進める。

施業の2年前から事前調査を進め、効率的な合意形成と効果的な森林整備を実施する。
徹底した現場管理による生産性、収益性、安全性の向上と労働環境の改善を実現する。

(1) 集約化団地の大規模化

● 集約化団地数を8団地まで削減

間伐・更新伐における 集約化団地数を前年度実績11団地から8団地まで削減できたが、目標である7団地までは到達できなかった。

間伐・更新伐の施工面積においては、大雪の影響を受けたことなどから、間伐、更新伐とも計画に達することができなかった。

区分	(単位)	R7目標値	R6計画値	R6実績
団地数	(団地)	7	7	8
間伐	(ha)	303	298	151
広葉樹更新伐	(ha)	115	122	77
計	(ha)	418	420	228
1団地当たり面積	(ha/団地)	59.7	60.0	28.6

(2) 合意形成の効率化

● 集約化団地の大規模化による合意形成の効率化

高岡市西広谷地区は、R5年度から合意形成事前準備に着手した山川地区に隣接している。山川・西広谷地区の森林所有者45名の内、15名が両地区に山林を所有しているため、両地区を合わせた一体的な集約化団地とすることで、効率的な合意形成が可能となった。

● 森林整備計画地の合意形成に着手

森林整備に着手する2年前に合意形成作業を開始し、R7森林整備計画地の60%の合意形成を完了し、R8計画地にも着手した。



地区代表者と現地調査

トピックス

森林環境譲与税を活用した意向調査の実施事例（高岡市山川地区）

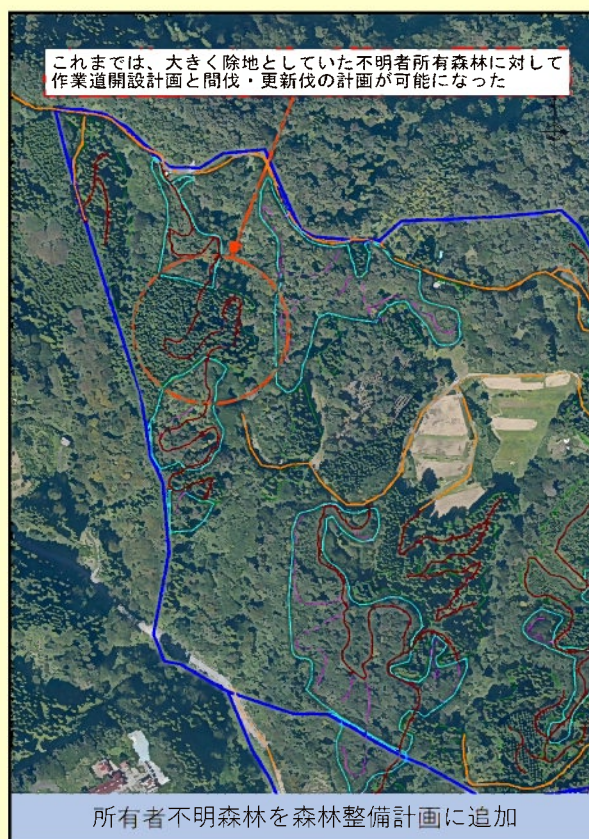
R6年度に森林環境譲与税を活用した意向調査業務を高岡市山川地区で行った。R5年度に行った意向調査事前準備（森林所有者の名寄せ作業、森林調査素図・見取り図作成）の結果、現在氏名や所在等が分からなかった不明森林所有者2名に対して、市と協力して意向調査と合意形成を行った。

R7年度に、地区全体の森林整備に合わせて一体的な森林整備を行う計画としている。



おおよその意向調査対象地番の場所

見取り図を参考にした所有者不明森林



これまでは、大きく除地としていた不明者所有森林に対して作業道開設計画と間伐・更新伐の計画が可能になった

所有者不明森林を森林整備計画に追加

● 出材量が **58,622m³** に増加した

● 主伐の出材量が30,000m³を超える

主伐による出材量が初めて3万m³を越え30,934m³に達した。
間伐・更新伐の出荷量は地震等による合意形成の遅れから
前年度比76%の25,520m³に留まった。

● 主な大団地での取組

山本団地（砺波支所）

輸送体制の強化、作業班ごとの分担体制による効率化により間伐32.52ha（出材量3,118m³）
広葉樹更新伐7.02ha（出材量1,104m³）を実施

- ・本格的な森林整備の前年に、基盤整備として林業専用道の開設、トラックが走行する林道の支障木伐採などを行い、施業開始後の作業効率の向上を目指した。
- ・作業班ごとに工程を分けて施業を行い、生産性を高めた。
- ・森林環境譲与税を活用し田畑や住居に近い里山の整備も併せて実施し、景観保全や公益的機能の向上に貢献した。



施業前年に林業専用道を整備



森林環境譲与税を活用した修景林整備



森林環境譲与税を活用した支障木伐採

末友団地（高岡支所）

作業効率の向上により間伐20.28ha（出材量1,477m³）広葉樹更新伐 22.55ha（出材量4,165m³）
主伐5.81ha（出材量2,889m³）を実施

- ・豊富な広葉樹林を有効活用し、従来は林地残材になる梢端部の搬出をすることで広葉樹更新伐184m³/haの出荷を実現した。
- ・現場作業員の班構成を見直し、再編成をおこなうことで、作業効率の向上をはかった。
- ・大型トラックがアクセス可能な中間土場を設けることで、現場内滞留量を減少させ、即時出荷を実現した。
- ・小型ドローン空撮による進捗管理をおこなうことで、現場管理にかかる労力を大幅に削減した。
- ・森林環境譲与税を有効活用し、林道・作業道の支障木伐採や補修をおこなうことで、輸送能力の向上をはかるとともに地域の景観保全や利便性を高めた。



15t車がアクセス可能な中間土場



小型ドローンによる進捗管理



森林環境譲与税を活用した既設道補修

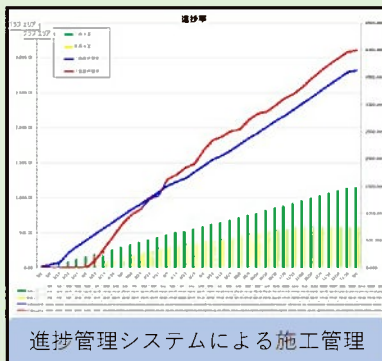
仏生寺団地（氷見支所）

林業専用道の活用により間伐25.33ha（出材量2,670m³） 広葉樹更新伐16.44ha（出材量1,335m³）
主伐0.66ha（出材量431m³）を実施

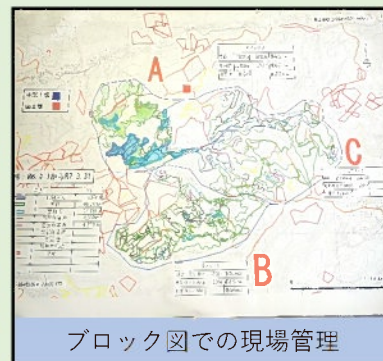
- ・既設の林業専用道を効果的に活用したほか、団地内に大型トラックでの輸送が可能な中間土場を設置したことにより、現場の滞留量を低下させスムーズな運搬を実現した。
- ・進捗管理システムの活用により進捗度合いのチェックが容易になり、より精度の高い森林整備を行った。
- ・「ブロック図」や週1回の打合せによる出荷予測を綿密に行い、円滑な出荷を実現した。



15t車がアクセス可能な中間土場



進捗管理システムによる施工管理



ブロック図での現場管理

3.人材の確保・育成

《基本方針》 入口戦略の多様化・強化、計画的な人材育成、組合内研修環境の整備を実施する。
安全教育の徹底、働きやすい環境を整備する。

(1) 入口戦略・人材育成の強化

● 入口戦略として民間求人窓口を活用

インターンシップに全国の大学等から4名が就業体験に参加した。採用者数は 職員3名、専門職員2名、森林従業者等1名となった。民間の事業体においては、森林整備業者54社、建設業者87社、測量設計業者10社の登録を受け連携を強化した。



インターンシップ 就業体験

● 人材育成プログラムの継続

資格取得研修 7項目 9日間 延べ 13人参加
社外研修 13項目 88日間 延べ 20人参加
社内研修 22項目 29日間 延べ308人参加
以上のプログラムを実践、継続した。



樹種勉強会

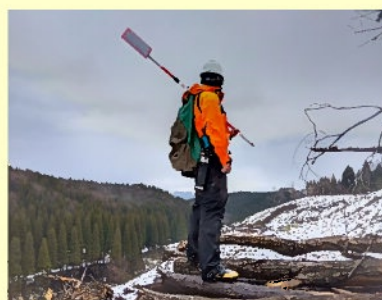


チェーンソー・刈払機分解研修

トピックス

フォトコンテストの開催

フォトコンテストを開催し森林、林業に関する魅力を積極的に発信した。



最優秀賞



優秀賞

◀ 94点の応募



特別賞

(2) 安全対策・労働環境の改善

● 安全・品質管理の徹底 及び安全装備品の充実

安全パトロール、安全講習会、安全作業審査・路網コンテスト、安全装備品の導入を継続した。

外部講師（警察署員、消防署職員など）による安全講習に積極的に取組んだ。各支所でチェーンソートレーニングを実施した。

労災件数は休業4日以上が1件（常用人）、4日未満が7件（常用人）となった。



消防署員による安全講習

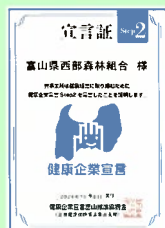
働き方改革の実践

● 働きやすい環境の整備

- ・令和6年度 男性4名が育児休暇を取得
- ・「Good!! Work & Life とやま」「イクボス宣言」「元気とやま！子育て応援企業」「女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画」の取組みの継続

健康経営の取り組み ～とやま健康企業宣言step2金へ挑戦～

組合では、昨年「とやま健康企業宣言step1」に取り組み認定を受けました。そして更なる挑戦としてstep2金の認定を目指し以下の取組みを宣言します。



- 1.健康診断受診率100%
- 2.二次健診受診率100%
- 3.特定保健指導受診率100%
- 4.家族への健康診断奨励(目標50%)
- 5.節目年齢検診（費用は組合負担、個人負担なし）
- 6.毎月「健康づくり」のテーマについての会議を設ける
- 7.従業員へ健康をテーマにした講習会・研修会の実施
- 8.禁煙セミナー・たばこの害に関する勉強会の実施

『くるみんマーク』2024くるみん認定を取得しました

くるみんマークは「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定を受けた証です。

組合において令和3年より取り組んできた子育てに関する一般事業主行動計画について令和6年6月26日「くるみん認定」されました。

現在は、職員等が仕事と家庭の両立ができるよう、新たな行動計画を策定し健康で安心して働ける職場環境作りを目指しています。

- 目標1 男性職員の育児休業5日以上取得率を10%以上にする。
- 目標2 年次有給休暇の取得日数を一人当たり7日以上取得する。
- 目標3 所定外労働を削減するため、毎週水曜日をノー残業デーとして実施する。
- 目標4 仕事と家庭の両立ができるよう、組合内制度の検討、導入拡充を図る。

● 就業規則の改正

- ・地域貢献活動や災害復興支援活動などのボランティア活動に積極的に参加できるよう、ボランティア休暇制度を導入した。

育児休暇中のパパさん



4.加工部門（オガ粉生産）の強化 もりもりハウスの収支改善

《基本方針》オガ粉の安定的な受注の確保 及び もりもりハウスの収支改善を目指す。

(1) 原木の安定的な確保 (2) もりもりハウスの販売強化

● オガ粉販売量

R5 23,441m³ ⇔ R6 22,758m³

- ・取引先へ定期的に品質確認・要望を聴取し、取引先の需要に合わせた製造を実施した。

● 原木の安定的な確保

- ・素材生産者の廃業等により原木の確保が難しいことから、県東部の林業関係者に対して更新伐事業の促進と原木の安定的な調達に向けて更新伐現地視察会を開催した。

● 販売強化策の実施

- ・もりもりハウスでは近隣の営農組合等の新規開拓により果物や野菜の販売商品を強化した。

5.組織の体質強化

《基本方針》 固定資産の計画的な導入及び処分を進め、組織の資本効率を改善する。
組合員に信頼され、地域に貢献する適正な運営、公平で透明な組織づくりを行う。

(1) 固定資産の新規導入・処分

● 事業計画に即した機械・設備の導入

- ・ハーベスタプロセッサ 2 台・グラップルソー 1 台の計 3 台の高性能林業機械を導入した。
- ・昨年度から造成工事を行った大鋸屋ストックポイントが完成した。



ハーベスタプロセッサ



ハーベスタプロセッサ



グラップルソー



大鋸屋ストックポイント

● 利賀村にあった2つの施設を解体処分した

・解体費用の高騰や建物の老朽化によるリスクなどから、当初計画では、旧上畠工場を令和 6 年度に、旧利賀支所事務所を令和 8 年度にそれぞれ解体処分予定であったが、令和 6 年度に 2 施設の解体処分工事を行った。

なお解体処分費は、施設整備積立金（処分等）を取り崩しその費用に充てた。



上畠旧工場

所在地：南砺市利賀村上畠字南上779
取得年月：平成9年8月
構造：鉄骨2階 延床面積：576.25㎡



旧利賀支所事務所

所在地：南砺市利賀村上島50-4外
取得年月：昭和48年9月
構造：鉄骨3階 延床面積：453.552㎡

(2) 組合員、地域から信頼される組織体制づくり

● 里山の活用についての検討会議や研修会、視察依頼に積極的に対応

- ・林野庁が主催する里山広葉樹活用推進会議に森松組合長が委員として出席した
- ・富山県副知事や林野庁から森林整備部長、間伐対策室長が、当管内の集約化施業や広葉樹資源の利活用状況について視察された。
- ・令和6年度林業白書において当組合の広葉樹更新伐の取り組みが記載された。



「里山林の再生と利用」
視察・講演会

- ・「里山林の利用と再生」視察・講演会を開催し、現地視察会や八色しいた協同組合の方の講演会などを実施した。

トピックス

オガ粉出荷先企業と「体験交流イベント」を開催

- ・オガ粉を生産する当組合とそれを使用してしいたけを生産する八色しいたけ協同組合が木材供給に留まらず、環境に配慮した持続可能な社会形成の一翼を担うことを目的に「体験交流キックオフイベント」を開催した。

八色しいたけ協同組合さんとの「体験交流キックオフイベント」



記念植樹後の集合写真



どんぐりの播種体験



モリアゲ長野麻子さんの講演会

● 課題解決のため検討会開催

- ・総務、ICT、保育、集約化・林産、人材、オガ粉の各部会がR6の課題について対策を行い、3月19日には報告会を開催した。

● 内部監査の実施

- ・4名の監査担当者（森林組合監査士）が11月6～8日に内部監査を実施した。指摘・指導事項については改善に取り組んだ。

● 災害時応援体制の継続

- ・今年度の災害応援要請は0件だったが、常に天気予報を確認し応援要請の準備に努めた。

6.SDGsの取組み

《基本方針》SDGsの取組みを宣言し、各事業の取組みを進める。



● 関係機関に取組みを宣言

- ・各機関に宣言した目標達成のための取組みを実施した。

取組みの実施状況

No.	取組目標及び主な取組み	SDGsゴール
1	【目標】 持続可能な森林経営を推進するため循環型林業を展開します 【実施状況】 ・森林の持続可能な利用を確保するため、間伐及び更新伐を228.5ha実施しました。併せて林業専用道341m、森林作業道54,350m開設し、森林整備及び路網整備を推進しました。 ・次世代に豊かな森林資源を引き継ぐため、伐採跡地への植栽を19.9ha、植栽後の初期保育(雪起しや下刈)を143.4ha実施しました。	11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさを保ち増進する
2	【目標】 木材の効率的な生産・流通及び加工を推進する 【実施状況】 ・木材資源の効率的な利用を進めるため、主伐を49.7ha、30,934m ³ の素材を生産しました。 ・環境にやさしい木質バイオマス発電へ未利用材を15,101m ³ 供給しました。 ・食料品の持続可能な生産に貢献するため、管内の広葉樹資源(ナラ類)を9,578m ³ 出材し、キノコ栽培用オガ粉を22,758m ³ 生産しました。	2 飢餓をゼロに 7 エネルギーをみんなに 12 つくる責任 つかう責任
3	【目標】 人材の育成及び働きやすい環境づくりに努める 【実施状況】 ・全ての従業員及び協力業者に質の高い教育を進めるため、社内研修22種類を実施し計29日、社外研修13種類を実施し計88日実施しました。 ・とやま健康企業宣言「step銀」の認定を受け、働きやすい環境づくりに取り組みました。 ・くるみ認定を受け、仕事と家庭の両立ができる職場づくりに取り組みました。	4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を實現しよう 8 働きがいも 経済成長も

主な計画数値と実績

主な計画数値と実績

計画数値（経営）	（単位）	R7 目標値	R6 計画値	R6 実績	備 考	指標 〔全森連提示〕	参考値 〔全国平均〕 （R5調べ）
売上高	（百万円）	1,842	1,803	1,805	—	—	427
税引前当期利益	（百万円）	39	37	△6	—	—	25
自己資本対経常利益率	（％）	2.7	2.4	0.3	経常利益/自己資本で 高いほど良い	10%以上	8.4
人件費率	（％）	72.8	71.7	70.7	収益性の指標で 低い方が良い	60%以下	57.0
固定比率	（％）	23.2	25.6	30.5	安全性の指標で 低いほど良い	100%以下	39.9
事業管理費率	（％）	91.5	92.5	101.4	収益性の指標で 低い方が良い	80%以下	78.4
効率性	（万円）	1,133	1,162	1,017	—	—	1,014

※〔全国平均〕は令和3年度森林組合統計（e-Stat）より

主な計画数値と実績

計画数値（事業）	（単位）	R7 目標値	R6 計画値	R6 実績
間伐面積	（ha）	303	298	151
広葉樹更新伐面積	（ha）	115	122	77
主伐面積	（ha）	35	32	49.7
出材量	（m ³ ）	70,200	67,300	58,622
加工部門売上	（千円）	160,823	160,823	172,216
販売部門売上	（千円）	706,630	671,660	663,767
森林整備事業売上	（千円）	248,454	246,660	219,743
利用事業売上	（千円）	618,872	617,176	668,901
加工、販売、森林整備、利用売上計	（千円）	1,734,779	1,696,319	1,724,627

※計画値はR4報告書より路網、県単、無花粉事業の補助金収入を控除した金額に見直した。

第2次中期経営計画における課題、R7の取組み

区分	R7の取組
1.スマート林業による効率化と経営基盤の強化	
進捗管理・木材在庫管理システムの運用	・農中森力基金で導入したシステムの本格運用により管理を徹底する
会計ソフトの検討	・課題のある現在の会計ソフトについて検討を行う
収益性の向上	・毎月、収支管理を取りまとめ報告会を行う
2.集約化・林産業務の効率化	
収益性の向上	・徹底した現場管理により工期の短縮を図る ・詳細な入出金管理を実施し無駄を排除する ・主伐の採算が十分に確保できるモデルを作る
3.人材の確保・育成	
新規労働者の確保	・建設、輸送業者等の林業参入の働きかけを行う
労働環境の改善	・社会の情勢に沿った賃上げを実施する ・機械整備庫、訓練施設の運用により効果的な研修を実施する
4.加工部門（オガ粉生産）の強化・もりもりハウスの収支改善	
安定的な経営	・原木ロス、電気代などの費用削減策を検討し収益性向上を図る（オガ粉） ・客層に合わせた品揃えの検討を行う（もりもり）
5.組織の体質強化	
固定資産の導入、処分	・機械整備庫の竣工・現場の要望に沿った高性能林業機械の導入
組合員名簿の整理	・出資金残高通知書発送の継続・不明組合員の調査の継続
6.SDGsの取組み	
取組の評価及び分析	・宣言した取り組みについて評価と目標達成に向け実行